

## そうめんはミミズ

上地 弘治 (1896・M29) 字座喜味 (02:18)

物の見んそーらんお婆がいえーとーるぐとーん。うぬお婆やな一嫁と二人るめーぐと。

うぬ嫁ぬミミズ取てい 来 なかいや、ミミズえ立派いうぬ土 あ出じゃち、あんさーなかい召そーらちえーるぐとーん、ちゃー。「何やが？」りちやぐと「うり素麺るえいびんどー」でいち。あんさーんかい じこー美味さてーがはん、うれーな一ミミジャーや薬 やぐと。

あんさーなかい、うぬお婆やまた、食むかーじ 筵 ぬ下 ンかい一 ちなーや、かんし置ちえーんしえーたん でい、ミミジャー。あんし美味さるむんくれー置ちよーてい、女 童 ン 達 ぬ来ねー見しーるないでいち。

あんさーなかいしえんへーるぐとーしが、うぬ自分 ぬ産ちえーる 女 童 ン 達 ぬ家かい親見舞しんが来つ、物ん見んそーらんるあぐと、見舞しんが来つさぐと。うぬ女 童 ン 達 ぬ、「何が汝や、あんし近頃から一 肥 ていめーる、何う召そーちめーが」りちやぐと、「私ね一素麺食り、毎日食まするかーじ一 ちなーや其処んかい置ちえーんどーや、うり見ちんり、素麺るやるい何やが、見ちんり」りちやぐと。んちや、全部出じゃしんほーちやぐとミミジャーなたぐと。うぬ女 ン子あ 驚 ち「アキサミヨ一！汝あくんぐとーるむんる召そーちめーんな、ミミジャーるえいびんでー」りちやぐと、「ん！」でいち、目い開らちほーちゃんてい。

うりさーに分かたんり、ミミジャー食ろーん、またミミジャーや人お 肥 いる滋養物やさやーりち、女 ン子 考 たんでい。うり食らぐとる 肥 ていめーて一はにりる 話 やるぐとーん。

## 【共通語訳】

目の見えないおばあさんがいらっしやったそうだが。そのおばあさんは、嫁と二人で暮らしていた。

そこの嫁はミミズを取ってきて、ミミズの土をしっかり吐かせて、おばあさんにいつも食べさせていたようだ。おばあさんが「これは何なの」と聞くと、「そうめんですよ」と嫁は答えていた。それは大変おいしかったらしい、ミミズは滋養でもあるからね。

そこで、おばあさんは、ミミズを食べるたびに、ひとつずつ取っては、筵の下においていたんだって。こんなに美味しいんだから、これは取っておいて、娘たちが来た時に見せてあげようと思ってね。

そうしていたようだが、そのうちに、娘たちが目の見えない親を見舞いに来た。娘たちはおばあさんを見て、「お母さんは最近太っていらっしやるけど、何を召し上がっているのですか」と聞くと、「私は毎日そうめんを食べているが、その度にひとつはここを取っおいてあるよ。見てごらん。そうめんでしょう」と、筵の下から出して娘たちに見せた。「アキサミヨ一！お母さんはこんなものを召し上がっていたのですか。これはミミズですよ」と、それを見た娘たちが驚いて言った。「ええっ一！」と、おばあさんはミミズと聞いて、びっくりしたとたん、目が開き見えるようになったんだって。

おばあさんが太ったのはミミズを食べたからだとその時に分かったそうだが。また、ミミズは人間にとって滋養だということもね。